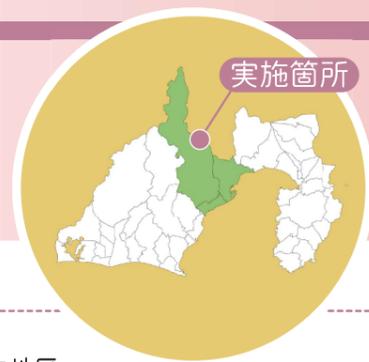


山間集落における「オクシズかいもの広場（都市的機能を有する移動拠点）」と、地域主体のデマンド交通運行による地域づくり事業

株式会社バイタルリード 森山 昌幸 福井のり子 森山 日向子 梅山 茜
 静岡型MaaS基幹事業実証プロジェクト、静岡市 交通政策課・中山間地振興課、
 一般財団法人計量計画研究所、大河内学区自治会連合会、静岡市葵区梅ヶ島学区自治会連合会、
 大河内生涯学習交流館、梅ヶ島生涯学習交流館



1 背景と目的

- 梅ヶ島・大河内地区は、地区内にスーパーやコンビニがなく、生活拠点となる商業施設や医療施設等へのアクセスが困難な状況。
- 本地区では、令和4年度に事前予約制デマンド型区域運行（ダイヤあり）の実証運行を行ったが、すべての集落を回ると時間がかかり、一日2便の運行が限界であった。
- 本事業では、車を自由に使えない高齢者等のいきいきと暮らし続ける環境づくりのため、生活利便性を高める持続可能な乗合交通の構築と地域に根差した運行形態の検証を行うとともに、地域内外の団体間（自治会、シニアクラブ、中小企業家同友会等）との連携を図った生活拠点形成と地域住民が集う場の実証、これら取組を地域住民が主体となり持続可能にするための運行組織の素地づくりを行ったものである。

地域の概要

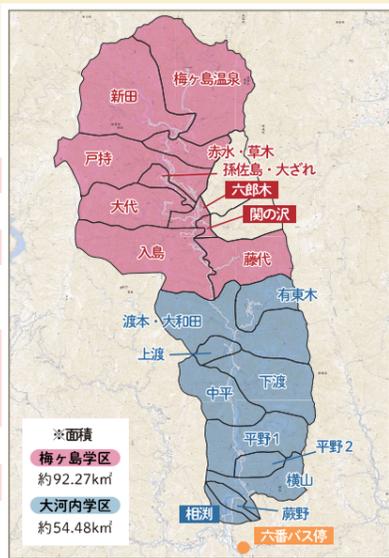
- 静岡市 梅ヶ島・大河内地区
 梅ヶ島地区：人口410人／高齢化率54.9％／世帯数：214世帯
 大河内地区：人口542人／高齢化率55.7％／世帯数：267世帯
※令和5年6月30日時点住民基本台帳
- 安倍川の上流域に位置する山間集落で、幹線道路から離れた所に集落が点在している。
- 高齢化率が50%を超えており、自家用車の運転に将来的な不安を抱えている人が多数存在し、既存バス路線だけでは住民ニーズをカバーすることは困難な状況。

2 実験の概要と結果

実験概要

▶ オクマス号（デマンド乗合タクシー）の概要

実施期間	2023年11月～2024年1月末(3か月間)
運行時間	9:00～16:30
運行日	梅ヶ島学区 月・火曜日 大河内学区 水～金曜日
事業区分	自家用有償旅客運送事業(道路運送法79条)
運行形態	日安時刻あり+完全オンデマンド制のハイブリッド型(区域運行)
特徴	★バス停への移動が多い時間帯は日安時刻と運行方向を固定 ★発着時間にバッファをもたせ、複数集落の利用者の乗合を可能とした
予約方法	電話またはLINE (WEBアプリ)
金額	1乗車 200円/月額 2,000円(乗り放題)
その他	大河内地区では、オクマス号利用者に飲食店等で利用できる割引券を配布(自治連合会の費用負担)



▶ 「オクシズかいもの広場」の開催概要

開催日	時間	出店者のジャンル	参加数
2023年11月2日(木)	11:00～13:00	パン屋、焼き芋、整体	68名
12月7日(木)		お茶、海鮮丼、焼き鳥	110名
2024年1月11日(木)	11:00～13:00	移動相談室、眼鏡	60名
2023年12月4日(月)		衣料品、ヘッドスパ等	45名
2024年1月15日(月)			59名



▶ 住民ワークショップの概要

開催目的 地域住民が地域内交通を“自分たちの乗り物”という意識をもち、それを地域で支えていくという意識醸成

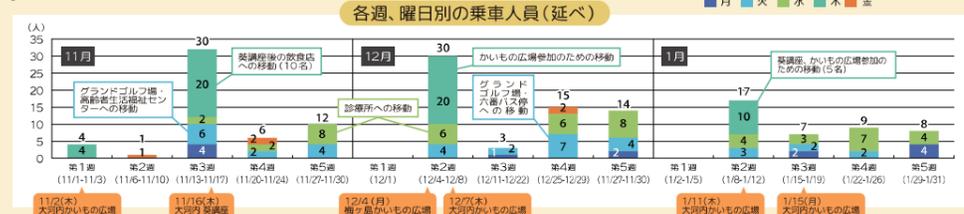
開催日	時間	ワークショップのテーマ	参加数
2023年10月19日(木)	19:00～	・地域の強み、弱み、アメリカ大統領へおすすめしたいもの	23名
2024年1月26日(金)	21:00	・移動手段について困っていること(自分・家族) ・オクマス号の良いと思う点、改善が必要な点 ・より使いやすくするためには？	20名

オクマス号の実証結果

▶ 利用状況

地区	会員数	総利用者数	主なお出かけ先
梅ヶ島地区	25人	49人	診療所、高齢者生活福祉センター等
大河内地区	40人	109人	生涯学習交流館、診療所等

▶ 曜日別利用状況

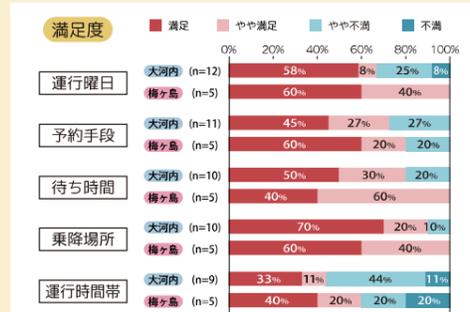


▶ 利用者の満足度

イベント参加や飲食店・グランドゴルフへの参加といった趣味や娯楽のための移動も多く見られ、大河内地区では、特にオクシズかいもの広場開催日の利用者が大幅に増加

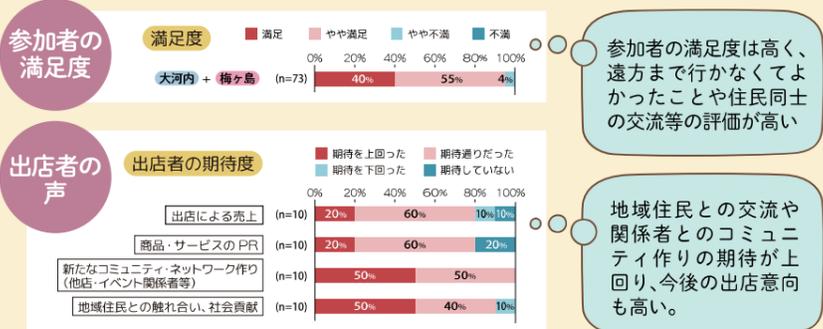
運行曜日・配車の待ち時間・乗降場所・予約手段の満足度は6割超。運行時間については再考の余地あり。

Point 定期的に開催される地域行事と併せてイベント等の外出を促す機会創出を行うことで利用者数と乗合率が向上

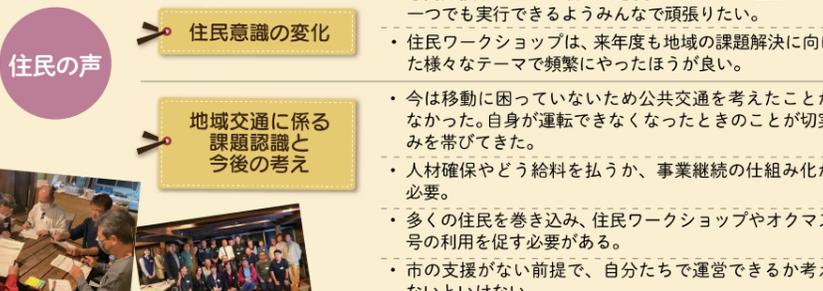


「オクシズかいもの広場」と住民ワークショップの結果

▶ オクシズかいもの広場



▶ 住民ワークショップ



今後の展望

- 利用者増と利便性向上に向け、地域集落支援員と連携した高齢者への利用促進や、単位自治会ごとの会員登録意向調査など幅広い地域関係者を巻き込んだ施策を行う。
- 収支率を向上させるため、運行車両のダウンサイジングや住民が保有する車両の活用、診療所や地域の施設と連携した運用の仕組み（代理予約等）を検討。
- 目的地創出のため、オクシズかいもの広場は継続実施。地域内外からの参加者増と滞在時間延長のため、参加型ワークショップ（高齢者向けの健康体操、ものづくり体験ワークショップ等）の実施を検討。
- 運行形態にあった行政の補助メニューを活用し、なるべく連合自治会がコスト面でも負担なく継続できるかたちを目指しつつ、地域課題解決に向けた協議や取組を地域主体で実施。